

会教育上の問題でもある。
大学紛争などでも、少数がリードして反抗し、多数が傍観している形ではないだろうか。

2、集団教育と個人教育

集団教育の場合は学校や、社会で、個人教育の完成は主として家庭であると考へたい。個人の完成がない限り、よい集団は望めない。個人の教育上大事な位置を占める家庭では、余りにも、幼児から子どもを甘くして、躰を怠っているのではあるまいか。

親が子どもに弱いという言葉を使えばたびたび聞くが、もつと厳しく、正しく躰けなければならぬのではないか。

3、教職員と生徒

教職員の中に思想不良の者、或いは生徒の指導を怠り、生徒の言うなりになる軟弱な者については、管理者で十分な指導と処置を望みたい。
生徒に対しても厳しくしなければならぬ。これは単に教師だけでなく、父母も社会人も、正しく厳しくあつて欲しいものである。

特に、父母の権威を高めることは重要だと思ふ。昨今、父の権威がなさずぎると言われるが、自信ある態度を維持し、威厳を取り戻してほしい。

4、PTAとして

PTAとして学校への干渉は望ましいことではないが、後援は充分に欲しい。また、PTA会長が一年で交替することはないか。なるべく二年ぐらいは継続が欲しいし、それができない場合でも、運営上支障をきたさないよう考へたい。

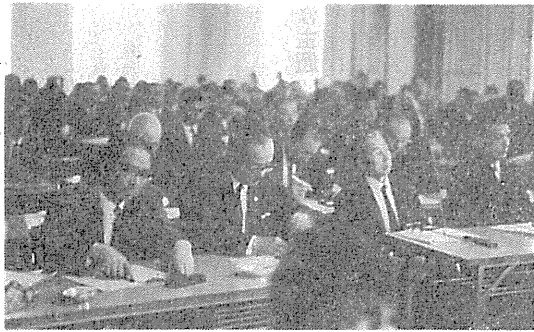
即ち、研修会に会長だけでなく、副

会長なり、他の役員なり、ともに出席して、必要な事業や考へ方は、次年度へも引き継いで実施できるような方途を講じられたい。

西部班（農業経営高P川合会長）

1、善行に対する表彰の方法について

各高校とも最近、表彰を行なわない傾向にあるがその理由は
(一)優等賞等を授与しないのは、学業等それぞれ選択科目が多く、同一基準での判定が困難であるため
(二)成績テストの点で、優劣の基準とはなし難い
皆勤、精勤賞は授与している学校あり、また、クラブ活動で貢献したもの、外部から善行を感謝されたもの等は、生徒全員の前で表彰を行なっている。



(熱心に研修する会長さん方)

2、生徒の政治活動に対し、これを非行と断定すべきか
生徒が社会問題に対し、関心を持ち、行動することは、一概に非行ときめつけることは一考を要するが、彼らの不平、不満を全学連的手段に訴えることは、明らかに違法であり、厳しい態度でのぞむべきであると同時に、大事に至らぬ段階で、指導解決すべきである。

3、最近の親子関係理念は如何にあるべきか
今日ほど人間教育の欠けた時代はない。親、教師、ともに自信と責任をもって、それぞれの教育に当らなければならない。

4、学校における道徳教育は、如何に指導されているか
倫理・社会で指導されるほか、各教科内でもとりあげ、指導されている。倫理・社会では理論的、学問的な教育に重点がおかれ、実践面での指導は必ずしも充分とは言えない。

この後、全体会議があり、各班の発表が行なわれたが紙面の都合で省略させていただきます。

(高) (校) (紹) (介)

— わが校の誇り —

静岡県下の公立高校は八十六校、
郷土の明日を担って、やがて社会に
雄飛する生徒は、今、それぞれの誇
り高い学園に、学び続けている。

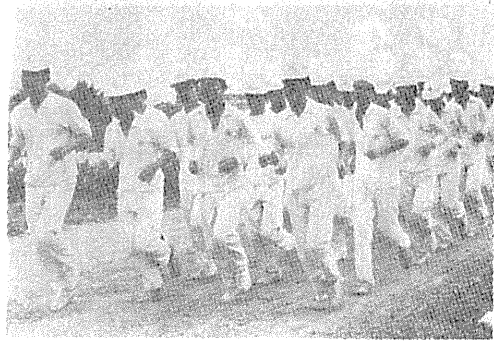
静岡市の中心から東へ四キロ、川合の地に、日本平を真南にみて、神威な龍爪山を背中にした、田園地帯にぼつたり、白亜の殿堂、静岡東高校を紹介する。

毎朝約千台の自転車、遅刻厳禁の校是のもとに、北街道を真黒に埋めて、ある時は神業のように、車輪の間を縫って通学するのは、既に北街道の名物になっている。
三年間、怪我もなく通学できれば、それだけで卒業単位は貰ってもよいほどの混雑

の中の通学風景である。しかし、運がよいのか、自校の誇る生徒の責任感からか、開校以来七年間、未だに擦過傷、軽打撲傷以上の事故は出ていない。
角棒なしの舌戦で
信と和の恵まれた学園
育つ——「話そう会」

学校の方針は、徹底した人間教育で、「やり抜こう精神」である。単なる猪突主義は若者を動かさない。職員同志、生徒同

志、そして職員生徒一体の姿である。話し合いを基盤とした納得のゆくまでの意志統一を第一義とする。生徒会主催の「話そう会」もその一つの表われであると判った。



(東高校のマラソン訓練)

定期的に、人生問題から、大学問題、校内問題等が取りあげられ、職員も多い時は五、六人随時出席して、疊敷の「げやき寮」で舌戦が始まる。

本校の特色は、徹底した学習強化と、HR育成である。

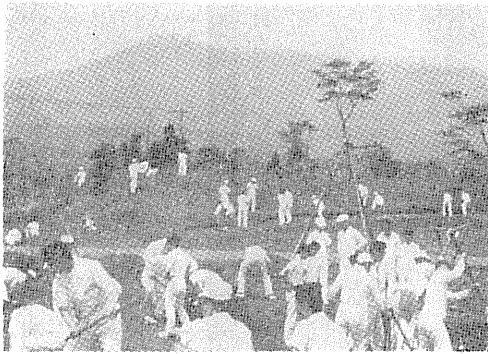
「東高はシボるぜ」という噂も聞くが、必ずしも、テストの頻度ではなかりそう。昨年、PTAの総会に、出席率が少し悪かったというので、父兄面接、家庭訪問、親子面接と、先生の都合のつく限り、くり返し実施したほどである。生徒よりも、先生が悲鳴をあげないかと怪しまれる程の繁忙さ——PTAの話。

創立以来、河村校長のモットー、「自分

に負けるな」で第一次五ヶ年計画も終り、後を承継いだ岡本校長が張り切つての第二次計画に入っている。

新設校の強味は食欲と思われるまでに既設高校の良さを全面吸収することに努めていることである。しかも今や、再検討と充実整理の段階に入っている。その上、創立当初の若々しい気持をいつまでも持ち続けようとする気力は、教育課程方針や、生徒指導方針等に、形式化、固定化を避けて弾力性をもって進んでいくところに現われている。

この弾力性のある方針は、一歩誤れば、主体性を喪失している弱者と罵られるかも知れない。諏訪教育長の年頭所感で言われた、「はき違えられた民主主義は断固排す



(富士山麓で奉仕作業する東高校生)

べし」の言葉に応じた、「われわれの誤りは、今後五十年、百年の禍根を残す」との自戒のもとに、生徒を愛し、生徒を育てる信と和の学園が、ここに誕生している。

(同校二年生の旅行感想文を貰い受けたので紹介する。)

修学旅行感想文 二年一生

今ふり返ってみると、あつと言うまに過ぎ去つた五日間だった。この五日間は嘔めば嘔むほど味の出してくる有益な日だった。(中略)

旅行中に感じたものは、大自然に比べて人間なんて、何とちっぽけなものだろう、ということである。そして、その大自然に立ち向かっている人間の雄々しい姿に感動した。その結果のひとつが黒四ダムである。人間が大自然に立ち向かった一つの証拠である。この証拠は、大自然に比べれば米粒くらいのことかも知れない。しかし、その一粒が大自然征服への大事な足がかりとなるだろう。(中略)

旅行の収穫は数あるが、中でもこの旅行を機会に、時には何となく薄のあつたHRのひとつりひとつりの性格が、よくわかつてきたことであつた。嬉しい喜びだった。旅とは、人の心を変えるものだところから聞いたことだったが、一緒に寝起きして、同じ釜の飯を食っている間に、大食の人、歌の上手な人、教室では見られなかつた友の姿を見ることができた。一生の思い出に、心の片隅に残していく幾つものがある。(後略)

生徒の近作川柳

(学生運動に)

角棒で学生時代を棒に振り

青二歳めがと小生で怒る大学長

やれ打つな教授手を摺るゴマを摺る

(県立静岡岡東高等学校)

(付記) 昨年四月から十二月までに、この

学校への視察訪問二十三校。殆どが生徒指導の状況視察と聞く。



(意気あがる 富士宮北高・卓球部)

学習へ傾ける若き情熱

全校一致の友愛の花

——富士宮北高を尋ねる——

霊峰富士の白雪の屏風の前に広がる三万坪の大地に、われらの学び屋の園がある。大自然の中に新校舎が建ち、新しい時代の自然の調和を作り出している。校舎を中心に、体育館、武道館、緑の芝生の中に土の香匂う四百トラック、県下一と言えるであろう野球グラウンド、六面のテニスコート、弓道場、三面のバレーコートが、それぞれ独立して新しい校舎をとり巻いている。

桜と銀杏の織りなす並木道が数百メートル続いているが、その並木道が無二の歴史を語っているとも言えよう。私学からの伝統の重みが新しい型で生み出されてきつつある発展途上の意気に燃えている。そのム

1ドの味は、ご馳走を食べる前の気持ちに似ている。ともあれ、このような環境の中でこの一年を振りかえり、何がより印象的だったか話し合ってみた。

A—何といっても本校初の国体出場をなした。ええ、庭球部の活躍がよかったね。

B—そうだ、運動部の活躍はインターハイに出場した陸上、卓球、それに初出場の偉業をなしたと柔道も印象に残るね。

C—勉強の方も大分ムードがでてきたよ。D—特に本校が他校に誇れることとなるとむずかしいね。目新しいことでは落語研究会の活躍だが、特に誇れるというポイントにはならないかな。

B—インターハイ出場の中で小児マヒを克服



(村松君を中心に富士宮北高卓球部員)

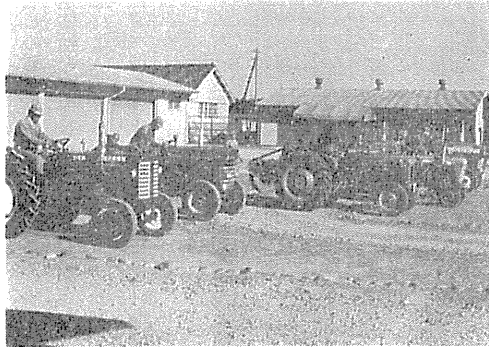
服して県代表になった村松君は素晴らしいね。

A—そうだね、これは他高生がまねて、できる、できないには関係ないが、全

くよくよやったね。

D—これなら誇れるかもしれないね。

B—今年の創立記念行事の十里木強歩で同じ卓球部の一年生の村松君より、ひどい小児マヒの渡辺君がいるけれど三十六歳のコースをナップザックを背負って走り抜いて、一年生四百人中十六番という、思いもよらぬ成績をあげたのも、村松君のインターハイ出場ということが、相当心の支えになったんじゃないか。



(農業経営高校のトラクター操法訓練)

ないかね。

C—これは小児マヒの者にだけでなく、すべての生徒にやる気、まげん気、根気を与えたいじゃないかなあ。

A—そうしたものが学習面にもプラスしたから、今の富士宮北高のムードが出たのかも知れないね。

B—あまり村松君オンリーで来たが、野球部の甲子園出場なんかも、その契機になっっているだろうし、その他のいろいろ

ろのことが、今のムードを作ったんだと思うな。

みんな―皆で頑張ろう、富士宮北高もこれからだな。

(県立富士宮北高等学校 一生徒の記)

(付記) この学校の創立記念行事には、十里木強歩、富士の巻狩り、富士のお中道巡りなどが行なわれる。

月収十万円以上の農家経営を

理想は世界へビタミン

――農業経営高校生――

――

企業の農業経営者を目指し、大きな夢と希望をもって本校に入学したのは、三年前のことです。自営者養成専門学校、そして全寮制に魅力を感じ、家を離れて、自分を鍛えたいという気持ちでした。

早いものでもう卒業していかねばなりません。この三年間は、本当に充実したものでした。農業のうわべと、「やり方」だけで儲かる」ことぐらいしか知らない私でしたが、ずいぶん成長できたと思っております。

本校の良さは、やろうと思えばどこまで実践できることです。全寮制ですので、農場の管理をはじめ、他所ではできない夜間の活動を実行できるのです。八百羽の育雛を一人でやった時に、そうした中で、農業の本当の素晴らしさを味わいました。また、学習形態が、専攻別ですから、八つのコースごとに、専門的に勉強できます。柑橘と養鶏を専攻して、卒業後、すぐ自分でやる自信ができました。

その他、農場の運営が学校農協を中心に行なわれますので、実際に即した学習を通じて農協の利用を理解しました。

この三年間で得たものは、計り知れないものがありますが、卒業後は、これを十分に生かして、地域農業の開発に貢献したい



(楽しい食事の農業経営高校生)

と思います。私の目標は、法人形態による農業経営です。

営農計画は、今、着々とできあがっています。世界で、世界のビタミン、蛋白の供給者として誇りを持って取り組みたいと思えます。そして、期待される、地域の指導的立場に立つ、企業の農業経営者としての努力をすることが、この環境を築きあげてくれた人々の恩に服する唯一の道だと考えます。

――卒業を前に希望にもえる

足立さん(女子)に聞いてみました。

「すばらしい校舎ですね」

――ええ、三方原の一直線に伸びた道路と、規則正しく区切られた畑に囲まれて、三階建の鉄筋校舎と寄宿舎、そして農場施設などほんとうに近代的だと

思います。

「まあ、こういう学校で学んでる皆さん
幸せだと思えますが、女子は何人です
か」

「はい、初めての学校だったので五人だ
け一緒に入学しました。」

「入学するとみんな寮生活に入るそうで
すね」

「はい、毎朝六時起床で、規律正しい生
活が始まります。楽しい時もあり、苦
しい時もあるんですが、仲間と話し合
い、励ましたり、励まされたり、何で
も気軽に相談できるので、寮生活はと
てもよいと思えました。」

「一年入学の頃の様子をちょっと話して
くださいませんか。」

「そうですねえ、わたし、養鶏クラブへ
入ったんですが、ブローラー（食肉用
鶏）の飼育を任されて、毎日、雛に飼
料を与えたり、様子を見に行ったもの
です。二ヶ月後、若雞となって出荷さ
れていった時は、肩の荷がおりた思い
でしたが、またあわれでもありました。
「そうですね、中々大へんなこともある
でしょう。ところで、三年卒業の今、
どんな感じですか。」

「そうですねえ、わたし三年間を通して
寮の役員をやってきましたが、今やっ
と下級生に、バトンを渡して、ほっとし
た感じです。副寮長という肩書きは、
常に私を戒めてくれました。嫌なこと
も、苦しいことも、「私がやらなくて
はいけないのだ」と自分に言いきかせ
て努めてきました。
「ご苦労さんでした。これから社会に出
てもっと大きな苦労もあると思います
が、苦労に勝てる自信がついたと思

ますね。それで卒業後の抱負をひとつ
……」

「まあ、困ります、わたし、この三年間
ほかの学校では経験できないような数
々の体験をしました。でも寮生活をし
たために視野が狭いと言われたくあり
ません。」

卒業後はこれを一気に挽回して広く
社会を見つめ、偏りのない人間になり
たいと考えています。そしていずれば
大地にしっかりと足をつけた農民として、
農村の近代化を担う、よりよき主婦と
なり、母となって生きていきたいと思
っています。

「ありがとうございました。もう授業が
始まると思えますが、どうぞ一層が
張って勉強してください。」

× × ×
(県立農業経営高等学校)

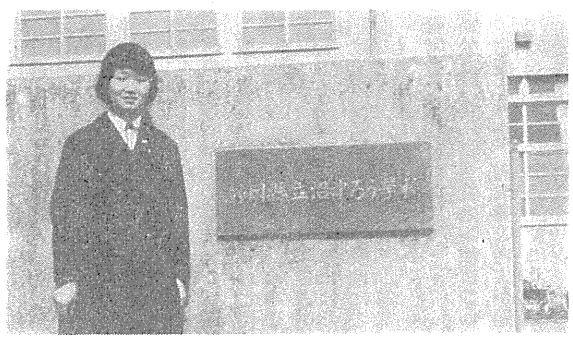
ろう学校の生徒さんは

果して不幸か

——生徒さんに聞く——

私はもう十四年間も、沼津聾学校という
温室の中で育っている。だが早いもので、
この春にはもう卒業だ。思えば長いようで
短かい年月、私の耳が聞えないばかり
に、父母にも大へん苦労のかけつばなしだ。
しかし、私は聾になりたくてこの世に生
まれてきたのではない。母もおそらく今度
生まれる子か、まさか、聾の子だなんて夢
にも思わなかっただろう。だが、生まれ
以上、私も強く生きなければと思う。
耳が聞えないということは、普通の人と
くらべてたしかに不便だ。普通人がしゃべ
っている口の動きは早くてよくわからない
し、自分の声も聞えないので、自分の話し

ている言葉も相手になかなか判ってもらえ
ない。知らない、聞きなれない言葉は、耳
から入ってこないもので、いつまでたっても



(沼津ろう学校に学ぶ福田さん)

言葉が進歩しない。従ってそれを補なうに
は、読書によらなければならぬのだ。
本校の職業課には、木工、洋裁、理容が
ある。私は今、理容師になるために、必要
な勉強を続けている。この春の国家試験を
ひかえて……。

職業があるということはありがたいものだ。
職業的な技術を身につけていけば、就
職には困らない。
私は父母から与えられた、この生命を大
切にしたい。私をこれまで育ててくださ
った父母の苦労、先生方のご指導を無にし
ないように。

私たちろう者は外見上、普通人と変らな
い。耳が聞えないことを除いては、手足も
ちゃんとあるし、眼も見えるし、人間とし
ての感情も持ちあわせている。その上、学

校で勉強させていただいたおかげで、口も
きける。普通人になんか負けるものかとい
う気でがんばれば、道は開けるだろう。卒
業したら、普通人に負けない人間になるよ
う努力したい。

社会は厳しいだろうが「風と共に去りぬ」
の主人公スカレットのように、「石狩平
野」の中の鶴代のように、明るく、たくま
しく、カ一ぱい生きてゆこう、そして社会
のために役立つ人間になろう。

——生徒さんのお手紙から——
(県立沼津聾学校)

青少年の表彰に

広島県のたんぼグループ

——全国高P推せん——

昭和四十二年五月十日設立された、高校
卒業生、女子八人のグループです。
各県から推せんされて出た十二の中から
全国高P理事会で選抜され、全国の国民会
議に踊り出た、このグループは一体、どん
な内容価値を持っているものでしょうか。

× × ×
グループ結成の動機
農村に生きる若い女性だけの励ましの方
を求めた。

孤独感の解消の場と考えた。
グループの目的

- 1、家庭と共に話し合える仲間づくりをす
ること
- 2、個人の弱さを団体の力でカバーし、広
い視野と、たゆまない研究心を培い、
立派な女性に、郷土の担い手になろう。
- 3、日常生活の中で、諸問題の中にある
核、アイディアを皆で話し合い、研究
し、交換し合って、皆そろって成長し
よう。

4、活動で得たことを社会に反映できるよ
う努力しよう。

活動状況
昭和42年9月

町の生活センターにて生活実習。
農家の主婦としての、家庭運営の仕方と
生活技術の取得。

42・12

愛農会との交換会

女性としての必要な愛の実行を教えら
れ、私たちの生活に大きな反省をさせ、
働く事の喜びを再確認した。

43・2

家庭菜園の研究

食事を担当して野菜不足を痛感、自
分たちの手で作れるもの、食べて美味し
いもの、また皆が喜んで食べる野菜を研
究しよう。そしてそれを利用した料理の
研究を合わせて行なおうというること
で、皆さんそれぞれ、レタス、カリフラ
ワー等を播種し、好成績を上げた。

全国農村青年連絡協議会参加

全国の農村青年と交わり、自分たちの使
命を再認識した。

43・6

郡内農村青少年リーダー研修参加

グループと農村の若いエリート(精鋭)
として、郷土の担い手として、互いに意
見を交換し、グループ運営の研究を行な
った。

43・7

郡内農村青年技術交換大会参加

男子青年のプロジェクト(計画)発表等を
聞く。

私たちの家庭菜園、活動状況等の発表を
行ない、助言を得た。

43・8

母校生活科生徒生活実習に参加
日常のマナー(作法)新しいアイディ
ア、若いセンス(感覚)等、身につけよ
うという気持。

県農村青年技術交換大会参加
意見発表を行なう。(家庭菜園を通して
考えたことを中心に)

ほか、同世代の青年との意見交換の場、
励ましの場として、岡山県賀陽町青年、広
島県甲山青年等、多くのグループとの交流
を図った。

また、私たちのグループのことを判って
貰うこと、祖父母等家族も一緒に話し合っ
たグループとなるよう、家庭訪問も行なっ
て、いずれも好成績をあげつつある。

付記——総理府後援の青少年育成国民育
成会議(社団法人)では、毎年十一

月までに、各地からの推せんを募
っており、奉仕活動、研究改善活動、文化体
育活動、育成指導活動、その他の
活動について一時的でなく、青少
年の活動を続けている個人または
団体を推せんしていただきたい。

藤森会長

県へ要望書提出

教育予算について

県は昭和四十四年度予算決定を二月にひ
かえて大わらわらわらわらわらわらわら
七日、藤森会長は高等学校教育費予算に関
する要望書を作成して、自ら竹山知事、胡
子総務部長、諏訪教育長を訪れ、説明を加
えて提出し要望した。要望書は次のとおり
である。

「昭和四十四年度高等学校教育費予算に
関する要望書」

県ご当局におかれましては、平素高等学
校教育のために大きな関心を持たれ、お
かけをもって教育条件は日々に改善され、充
実にまいりましたことに深く感謝申しあ
げます。

しかしながら、教育の重要性を考えます
と、県下高等学校教育の振興上、幾多の問
題が残されていると思えます。そこで、昭
和四十四年度においては、特に下記事項に
ついて改善方が尽力いただきたくお願いい
たします。

記

- 1、校舎建築に伴なう学校立替金について
 - (1) 立替金の早期償還の方途を講じられたい。
 - (2) 立替金に対する利子補給をされたい。
 - (3) 立替金の制度について、根本的な検討を加え、父兄負担の軽減を図られたい。
- 2、施設、設備の充実について
 - (1) 体育館、プール、格技場の新設を必要とする学校には、格別のご配慮をお願いしたい。
 - (2) 普通高等学校のA型類型コースにおける産業関係の施設、設備についても整備をはかられたい。
- 3、経常費の増額について
 - (1) 公費による需要費の増額について
物価上昇等、需要費の増大が顕著である折から、全額公費による予算的措置を講じられたい。
 - (2) 人件費の全面的公費負担について
雇用人夫賃や教助教手等の人件費は全額公費負担とされたい。

(3) 旅費については、年々増額されてい
るが、物価高騰の折から大幅な増額
を図られたい。
以上

編集後記

本会報から、理事会へ提案して、ご諒解
をいただいた高校紹介の欄を設け、抽出の
何校かを願ひし、掲載することにいたし
ました。今後、続けていきたいので、ご協
力くださるようお願いいたします。

抽出で今回、出番となった学校には、急
な寄稿の願ひで恐縮しましたが、お忙し
い学年末にありながら、願ひを叶えていた
だきありがとうございます。にもかかわ
らず、勝手に削除、或いは変更させていた
だいた点をお詫びいたします。
またたくさんのお写真もお寄せいただき
ながら割愛した点についてもお詫び申しあ
げます。

従いまして、ご意見、ご注意など仰有っ
ていただき今後には十分意を用いたいと存じ
ますのでよろしく願ひいたします。

昭和四十四年二月十日印刷
昭和四十四年二月十日発行

編集 静岡市追手町五番二号
発行人 県民会館四階社教課内

静岡県公立高等学校
PTA会長 連絡会
電話静岡八六一